

平成18年度鎌ヶ谷市献血推進協議会 会議録

- 1 日 時：平成19年3月2日（金）
午後1時30分～2時30分
- 2 場 所：総合福祉保健センター4階 会議室
- 3 出席者：出席委員 庄司委員 堀江委員 井上委員 菊池委員 細井委員
川崎委員 中島委員 中村委員 島岡委員
欠席委員 熊谷委員 品田委員 鳥羽委員
事務局 千葉県赤十字血液センター 田中事務部長
同センター渉外二課 栗津課長
同センター渉外課 泉主事
岩佐健康管理課長 木暮補佐 小山予防係長 鎌田主査補
傍聴者 なし

4 議題

- (1) 開会
- (2) 委員、関係者及び職員紹介
- (3) 議事
 - ①平成18年度献血事業実績について
※ 千葉県献血状況について
 - ②平成19年度献血事業計画について
※ 平成19年度新規計画について
 - ③その他
- (4) 閉会

5 会議内容

(1) 平成18年度献血事業実績について

(事務局)

- ・手帳のカード化
本人確認の充実、手続きの軽減
- ・初流血の廃棄（25ml程度を検査へ）
雑菌の排除
- ・イクスピアリの献血ルームを廃止し、松戸献血ルームの設置
- ・医療機関では、400mlのバッグを希望する声が多い。しかし、県内の400ml比率が低い。
- ・小中学生の献血への理解・普及活動
- ・県内で延べ22万人、実人数14万人、内10万人は年1回、4万人は2回以上

(委員)

200ml と 400ml での副作用の比較データがないのであれば、400ml を推奨するためのチラシの書き方がおかしいのでは？

(事務局)

前述のとおり医療機関で 400ml を希望することが多いといったデータに基づくものである。

(委員)

小中学生の献血への普及について、具体的に

(事務局)

- ・各小中学校へのビデオ配布「献血ってなあに？」等
- ・各種集会等での派遣により啓発

(委員)

不適者への指導・健診等はできないか？

(事務局)

- ・献血ルームでは健康相談等を実施しているが、バスでは未対応
- ・不適者にはパンフレットを配布している

(委員)

年1回の協力者への対応は？

(事務局)

- ・昨年3月に「複数回献血クラブ」が発足し、メールなどによるPRを行っている。
- ・はがきでも通知している。

(委員)

血液を多く採ると副作用は少ないのか？

(委員) (事務局)

- ・輸血を受ける側は、輸血による発熱・ジンマシン等副作用があるので、多く輸血をする場合、供給者の人数をできるだけ少なくしたいので、400ml が理想である。
- ・採血をされる側は、医師の十分な問診等によりほぼ副作用は無い。ごくわずかなる場合についても、200ml と 400ml での差は無い。

(委員)

千葉県の 400ml 比率が低いのは？

(事務局)

県内の供給状況が充分である場合、前述のとおり 400ml を推進するため、200ml を断る傾向にある。しかし千葉県の場合充分でないため、200ml の数も多くなり、その比率は低くなるものとする。

(委員)

千葉で採血して他県で検査すると聞いたが？

(事務局)

東京で一部検査しているが、大部分は県内で行っている。

(2) 平成19年度献血事業実施計画について

(委員)

18年度に「よさこい鎌ヶ谷」を実施したところ、約3,000名の人が集まった。

19年度は7月の商工まつりを休止して、PR等を大々的に行い実施する予定。

9月16日(日)の昼前から夕方5～6時くらいまでの予定。

(事務局)

バスの配車等を含めて、前向きに善処したい。

(委員)

市民まつりは？

(事務局)

毎年あがるが、スペースの関係と場所が土なのでほこりっぽい。

(3) その他

(委員)

若年層の獲得のため、コンサート会場などで行ってはどうか。アーティストの呼びかけなどがあれば、伸びるのでは？

(事務局)

短時間で多くの人数をこなすための受け入れに問題があるが、考えていきたい。

バス1台では1時間に11～12名程度

閉会